

こどもの本のギャラリートーク参加報告

小宮山光江
齊藤ます子

■日 時 平成22年5月2日(日)、5月5日(水)
午前13:30~14:00

■場 所 県立図書館1階ロビー

■参加者 県立図書館協力員(事業協力) 8名(五十音順・敬称略)
5月2日(日): 有泉芹香、羽田実幸、渡部百合
5月5日(水): 浅川玲子、乙黒幸江、小宮山光江、
齊藤ます子、松田きよ子

県立図書館のボランティアにはじめて参加しました。事業協力の部門に入り、仲間の方々と初顔合わせ。まずは5月5日のこどもの日のイベント「こどもにすすめたい本」のギャラリートークの、二人の孫と一緒に出席しました。

司書の小林さんの絵本についてのお話を、小さい孫と同じような気持ちでお聞きして、楽しいひとときを過ごしました。子どもの本の世界は、大人の社会が抱えている深刻な問題を反映していて、大人にも考えさせるものであることを改めて感じました。

選ばれた何冊かについての三十分のトークでしたが、内容が豊かで、もっと多くの方たちに来てもらえたら、と思いました。駐車場のないことがイベントの際の難点になっているとは思いますが、このような催しを広く知らせて、県立図書館が私たちの日常生活に必要な指針を与え、心に栄養を与えてくれる、私たちにとってなくてはならないものとなるために、協力員も働いてゆきたいと思います。

(小宮山光江)

平成22年5月5日(水)「こどもの日」。

この日は、県内各地で様々な催しものが用意されている。また、この日は天気も素晴らしい青空で大人がお出かけに誘われそうだ。

そんな中で、県立図書館では、「こどもにすすめたい本2010」と題した展示が4月23日から5月30日まで開催されている。

そして今年は「国民読書年」である。これに合わせて「ギャラリートーク」が行われた。職員の方が担当して、年齢や学年に応じたケース毎の展示の中から、流れるトークで様々なジャンルから、時にはショートな読み聞かせを入れながら、また、タイトルの「文字や表紙の絵」そのものに興味を魅かれる本を手にしたがらの「本の紹介」はこど

もだけでなく大人も読んでみたい気持ちに誘われる。こんなところから「本への興味」の扉は開かれていくのだろう。実際に来館していた幼い兄弟と小学生だろう姉と妹の姉妹はじっと見入っていた。

本には「仕掛けのある本」、「宇宙の本」、「化学（科学）の本」、「なぜ」やいろいろな「仕事の本」など等。何度でも読んで見たくなるものが沢山。

また、「新しい図書館」の建設も決定して、「図書館」には期待が膨らむ。そしてどんな姿を見せてくれるか。早く開館を！！と待ち望む。

昨今、電子ものが便利になり、巷では「ペーパーものは、段々無くなるだろう」と実しやかに聞こえている。だが、「紙の感触」は消えて欲しくない。ことに「本」の場合は…。

変な話だが、何度も読み込んだ「手垢」はいかにその本が好きなのかが一目瞭然。擦り切れても離したくないほどだ。ことに「こどもの場合は何度も同じ本の読み返し」。…幼い子どもほどその傾向は確実に！

先日、山日新聞の記事の中にあつた、某会社の会長の「沢山の本を読んで欲しい！！」との思いは先ほどの姉妹、兄弟に伝わるだろう。そして私も受け止めていこうと思う。

(斉藤ます子)

[[ギャラリートークの様子]]

